とどけ夢 未来へ
-DREAMING-

黒澤 真夕（まゆ）さん

●常盤小学校６年

夢への第一歩　それは笑顔

私の夢は、介護士になることです。私の親せきに、手足の不自由な方がいます。その方を手伝ううちに、介護士の夢をもつようになりました。

実際に介護士の仕事を見学したことがあります。介護士の方は、常に相手に笑顔で接していて、すてきだなと思いました。

私は今、合唱部の部長として、たくさんの人を笑顔にできるような歌を歌っています。笑顔は人を幸せにします。これからも笑顔を大切にして、介護士の夢をかなえていきたいです。

みんな広場

佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からのメッセージ

いよいよ「全国山城サミットｉｎ佐野」が開催となります。本紙４～５ページにも掲載しましたが、25日・26日のサミット本番に向け、準備も最終段階に入りました。皆さんと一緒に、全国各地から集まる大勢の山城ファンを「おもてなしの心」でお迎えしたいと思います。ご協力をお願いします。

さて、先月は市内各地で運動会や体育祭、文化祭、敬老会、そして秋祭りなど、さまざまな行事が開催されました。会場で皆さんの元気な笑顔に接し、たくさんの活力をいただいています。これからも時間の許す限りいろいろな行事に出席したいと思っています。

今月９日ですが、私が市長就任以来、実現を目指し進めてきた内陸の港と呼ばれる「佐野インランドポート」が、こちらもいよいよ運用開始となります。今後は、佐野市が持つ高速交通の優位点を活用した、世界に羽ばたく「佐野インランドポート」としてＰＲをしていきます。

芸術・文化の秋です。第９回ルネサンス鋳金展が12日まで文化会館で開催されています。全国から鋳金作品が出展される中、今回初めて市内在住の作家が大賞を受賞しました。ほかにも、２人の市内在住の作家が入賞しています。皆さんも、全国の鋳金作家のすばらしい作品をぜひ見に来てください。

朝晩の冷え込みも強まり、紅葉の便りも北部の中山間地域から聞こえてきています。市内には、全国山城サミットが開催される唐沢山城跡をはじめ、隠れた紅葉の絶景ポイントがあります。上作原の蓬莱山の紅葉もその一つですが、今月６日には、その作原とみどり市の沢入（そうり）を結ぶ林道が完成し、開通式が行われます。林道沿いの絶景ポイントを探すのも楽しそうです。ただし、林道ですので運転は慎重にお願いします。

岡部正英

今回の表紙　「国指定史跡唐沢山城跡の紅葉」　平成２８年１１月１５日撮影

いよいよ今月の２５日・２６日に開催を迎える「全国山城サミットｉｎ佐野」。本紙４～５ページで２日間の詳細をお知らせしています。ぜひ、ご覧ください。

今回の表紙は、アプリを使ってスマートフォンをかざすと、ドローンで空から撮影した唐沢山城跡の動画が見られます。アプリのダウンロード方法は、裏表紙をご覧ください。

人キラリ★話題の「ひと」

藤波 一博（かずひろ） さん
（村上町）

〇プロフィール
昭和２５年生まれ。
納税に対する意識の向上と人権擁護のため活動中。また、佐野市の観光や地域物産品の拡充を支援している。

山城サミットに向けて

今月25日(土)・26日(日)の「全国山城サミットin佐野」の開催を目前にして、実行委員会の藤波会長にお話を伺いました。

平成26年３月、唐沢山城跡が国指定史跡となったのを機に、鳥取県の第21回大会を視察し、その後、佐野市への誘致を実現させました。第１回大会は、兵庫県和田山町（現 朝来市）の竹田城で行われ、今年の佐野大会で24回目となります。

「９月に実施した参加者の申込受付は、行列ができるほどの人気で、改めて関心の高さに驚きました。唐沢山は出城も多く、今回のサミットを機に皆さんにたくさんの発見をしてほしいですね」と反響の大きさを話してくださいました。

約400年前に築城された唐沢山城の高石垣は見事で、関東で現存しているものは珍しく、その石垣をどう保存していくかが今後の課題だそうです。山城サミットを通して佐野市のすばらしさを伝えられることが最大の効果だと話します。

趣味は「仕事とまち歩き」と笑顔でおっしゃる藤波さんは、多くの委員や役員をされ、ご家族で一緒にお住まいの地域のこと、安全な食のこと、佐野の文化・歴史のことなど多岐にわたる活動をされ、仕事と趣味の境がないほどお忙しそうですが、どれも楽しんでされているようです。

藤波さんは、「唐沢山がテレビの大河ドラマの会場になってほしいと強く望んでおり、その調査の準備も始めています！」と、大会終了後の次の目標も明確です。かつての「天と地と」のように、佐野が舞台の歴史ドラマが実現するよう、市民みんなで盛り上げ、応援しましょう！山城サミットの開催が待ち遠しいですね。

（市民記者　永倉文子）

「全国山城サミットin佐野」の詳細は、４～５ページをご覧ください。

佐野弁 ばんざい

動詞に「ツン」を付けると意味・内容が変わる

意味を強めたり、あるいは別の意味を添えたりする語（接頭語）に、「ツン」があります。ツンは、ツンダス（出す）・ツンノメル（前に倒れる）・ツンザク（裂く）・ツンムス（燃す）のように動詞の前に付けます。まずは「ツンダス」の用例から、その意味やはたらきをみてみましょう。

「あの男の子がしょんべんシテン（したいん）だって。ハエクツンダシテヤンネト、ムグッシャー（漏らしてしまう）カンネ」

ツンダスには、せっぱつまって出す、無理に出すという意味があります。

また、共通語の「のめる」は、前に倒れかかる、前にかたむくことをいいます。しかし、それに「ツン」が付くと、その強いはたらきによって、すべって前に倒れる、つまずいて転ぶという意に転じてしまうことが多いです。

「雨の降ったツグル（次の）日、あぜ道を歩いてたらツンノメッテ、着物をゼンテ（すっかり）泥だらけにしチャッタ」

「ツンザク」は「裂く」を強めることばです。布を強引に引き裂くことをツンザクというように、ツンザクは強い力を加えて引きやぶることをいいます。

「刺（とげ）のある木だって、ツンモセば、影も形もなくなるさ」のように、「ツンムス」には、燃すの勢い・強さが表れています。

これ以外に、ツンザス（刺す）・ツンムグル（もぐる）・ツンヌゲル（逃げる）・ツンムク（振り向く）などがあります。いずれの「ツン」も、「突き」が変化したものです。

（市民記者　森下喜一）